

序)「これはしてもいいのだろうか?」という悩み

- 聖書には「してはならない」ことがはっきり書かれている一方で、グレーゾーンのように思えることも多くある。
 - 例:職場の飲み会、タバコ、仏式の葬儀への出席、保険、占い など
- コリント教会も同じ問題で悩んでいた。
→「偶像に献げた肉を食べてもよいのか」(8章～10章のテーマ)
- 今日の箇所:
単なる「してよい／してはいけない」の話ではなく、
キリスト者の自由をどのように用いるべきか を示している。

1) 第一の基準: 私たちは「交わる者」である(16～22節)

A. 聖餐式: キリストとの交わり

- 杯とパンは、キリストの血とからだに「あずかる」(交わり・共有)こと。
- 聖餐式は、
 - キリストと一つに結ばれる交わり
 - 兄弟姉妹と一つにされる交わり
- 旧約でも、ささげ物を食べる祭司は、祭壇と、ささげられた神様との交わりにあずかる者とされた。

B. 偶像礼拝の背後にある「悪霊」との交わり

- 偶像そのものは木や石に過ぎないが、その背後には悪霊の働きがある。
- 「主の杯」と「悪霊の杯」を同時に受けることは霊的にあり得ない。
→ 霊的世界に中立地帯はない。
- 例:
 - 霊性を伴うスピリチュアル、宗教性を帯びたヨガや瞑想
 - 星占い・占い遊び・宗教混合主義(どの宗教も同じという考え)
- 【主】の「ねたみ」＝熱情的な愛。
私たちを独占したいほど愛しておられる。

▶ 自由の基準①

「私は今、誰と・何と交わっているか。」

キリストとの交わりと両立しないものはないか。」

2) 第二の基準: 自由には目的がある(23～30節)

A. 自由を方向づける三つの問い(23～24節)

当時のスローガン:「すべてのことが許されている!」

パウロは三つの問いで「方向づけ」をする。

- それは本当に 益になる か。
- それは人を 育てる か(徳を高めるか)。

3. それは自分ではなく、**他者の益になる** か。

→ 自由とは、「目的なき放縦」ではなく、
方向性をもった賜物 である。

B. 日常生活の中での二つの原則(25～30 節)

原則1: 基本的には自由(25～27 節)

- 市場の肉も、未信者の家で出された食事も、
いちいち「これは偶像にささげられたものですか？」と詮索しなくてよい。
- なぜなら、「地とそこに満ちているものは主のもの」だから。
→ すべてのものを神様からの賜物として感謝して受け取る自由。

原則2: 他者の良心への配慮(28～30 節)

- 「これは偶像に献げた肉です」とわざわざ言われたら、食べない。
- 理由:
自分の自由のためではなく、
知らせてくれた人の良心を守るため。
- 自由な行為が、他者に誤解やつまずきを与えるなら、その自由は一度脇に置く。

★ 賛美チームの例

- 自由に、華やかに賛美できる。
- しかし、礼拝者が【主】から目をそらされるなら、
あえてシンプルにし、「礼拝者が【主】に結ばれる」ことを優先する。

▶ 自由の基準②

「キリストに与えられた自由を、
自分のためではなく、他者を建て上げるために用いているか。」

3) 第三の基準: すべてを神の栄光のために(10:31～11:1)

A. 人生全体の目的(31 節)

食べるにも飲むにも、何をするにも、
すべて神の栄光を現すために。

- 教会の中だけではなく、家庭、職場、趣味、休み時間…
人生のすべてが神様の栄光を現す舞台。
- 「神様の栄光のために」という目標が定まると、
言葉遣い、時間の使い方、人との関わりが変わっていく。

B. つまずきを与えず、人々の救いを求める(32～33 節)

- ユダヤ人にも、ギリシア人にも、神の教会にも、
つまずきを与えない者 となるように。
- 自分の利益ではなく、多くの人の益を求め、
人々が救われるために生きる。

→ 伝道とは、言葉で福音を語るだけでなく、
人々に喜びを与える生き方 でもある。

C. キリストに倣う自由の使い方(11:1)

- パウロ:「私がキリストに倣う者であるように、
あなたがたも私に倣う者でありなさい。」
- キリストは、
 - 神であられながら、権利を主張せず
 - 僕の姿をとり
 - 十字架にまで従順に従われた。
- 「すべてのことが可能」なお方が、
私たちの救いのために自由を制限し、不自由な十字架を選ばれた。

▶ 自由の基準③

「キリストに倣い、
自分の権利よりも、神様の栄光と人々の救いを優先しているか。」

結び) 今週のための三つの問い

今週、「これはしてもいいのだろうか？」と迷う場面があったら、
次の三つの問いを自分に語りかけてみましょう。

1. これは、キリストとの交わりを深めるだろうか。
2. この選択は、私ではなく、誰かを建て上げるだろうか。
3. この行動を通して、神様の栄光は表されるだろうか。